

授業科目名	人事評価の理論と実践	科目コード	配当年次	単位
担当教員	榑原 康成	EJ43	3・4	2

科目の概要

組織における職業人にとって、昇給・賞与・昇進・昇格等の処遇は、最も興味関心の高いもののひとつといえる。その決め方が、恣意や不合理なものであれば、仕事に向かう意欲も減退し組織自体も不健全なものになりかねない。本科目は、職場マネジャーの本来の使命（基本役割）である「職場のレベルアップ」を、人事評価を通じて実践する方法を紹介したものである。評価者であるマネジャーも被評価者である部下も、仕事を通じた当事者としてより良い信頼関係を築いていくために努力すべきことがあるのである。そうした基本的ではあるが、より本質的な人事評価の習得を目指す。

科目の到達目標

- ①人事評価の本質的意義や目的を把握したうえで、実際に評価運用するための基本スキルを習得できる。
- ②社員の能力開発や業績向上を実践するために、人事評価をマネジメント・ツールとして活かすことができる。

テキスト

『マネジャーのための人事評価実践』産業能率大学総合研究所人事評価実践研究プロジェクト, 産業能率大学出版部, 2009年

テキストの読み方

- ①受講生の中には職業経験や組織におけるマネジャー（＝管理職）経験のない人も多数いることと思う。しかし、仕事（職務活動）が健全に遂行できているか、能力は伸び悩んでいないか等々を定期健診（＝人事評価）することは極めて重要である。
- ②もし今後、自分が部下を持ち職場を預かる立場（マネジャー＝評価者）となったならば、どのように人事評価を行うか。自分なりのイメージを持ちながら読み進めてほしい。
- ③テキストに書かれていることを理解するのはもちろんだが、それを実際の職業人生の具体場面でいかに取り入れ活かしていくか、また、より望ましい上司・部下のありかたとはどのようなものか、という視点でも考えてほしい。

単位修得の方法

レポート課題を提出し、60点以上であれば合格となり、科目修得試験を受験できる。科目修得試験の得点が60点以上であれば合格となり、評価が確定し、2単位を修得できる。